

さいこう 最高の クリスマスプレゼント

わたし、こころ、いちばんのこ
私の心に一番残っているクリスマスは、くるまいす、ねんがんとす
ことになった年のクリスマスです。

なつ、はい
夏に入ってまもなく、わたしはスポーツ事故で、右ひざのぜんじゅうじ
靱帯という場所にケガをしてしまいました。その後、靱帯の
まわりのしんけい、いた
周りの神経も傷めてしまいました。そのため、もつぱ
歩くのさえ、ひどく痛みました。それで、とても恥ずかしかった
のですが、ついにくるまいす、つが
のでも、ついに車椅子を使うことにしました。早く治りたくて、
いろいろな病院に行っては医者に見てもらいましたが、良い治療法は
なにひとつありませんでした。ある医者は、いしゃ、こうかく、しゅじゅつ
高額な手術をしなくては
ならないだろうと言いました。きびしいリハビリを提案した
いしゃ、けつぎよく、すう、か、げつ、ようす、み、し、ぜん、なお
医者もいました。結局、数ヶ月様子を見て、自然に治るのを
まつことにしました。

ひじょう、かつぱつ
非常に活発なティーンエイジャーだった私にとって、これは
さいあく、で、き、ごと、い
最悪の出来事でした。いろいろな場所に行って、いろいろなことを
したいと思っていたのに、一日中家に留まりたくなどありません
でした！ わたし、じ、もと、しゃこう
私は地元の社交クラブのユースカウンセラーをして
いて、5人組ダンスグループのダンサー兼振付師でもありました。
ボランティア宣教センターのユースマネージャーもしていて、
さらにふつが、いちど
さらに2日に一度はスポーツをする「運動大好き人間」でした。

それが、かつぱつ、いぞが
それが、活発で忙しかった日々を思い出しては、もう楽しい
かつどう、うんどう、えいえん、わが、つ
活動や運動とは永遠に別れを告げなくてはならないのだろうか
とおも、なや
と思い悩みながら、くるまいす、すわ
と車椅子に座ってふてくされる羽目になって
しまったのです。



すう かけつ た きんにく つが あし いしゆく はじ
散力月経つと、筋肉を使っていないために足が呑縮し始めま
した。さらに悪いことに、他の合併症にもかかってしまいました。
おそろく しゅじゅつ ひつよう
おそらく手術が必要になるかもしれません。

いしゅ あら しんだんけつ か き わたし いえ かえ
医者から新たな診断結果を聞き、私は家に帰って、あらゆる
ことについて考えました。当時、私はベッド脇のテーブルの上に
せい く へんしゅう ちい ほん お さいあく
聖句を編集した小さな本を置いていました。最悪のシナリオを
かんが す とく わたし あつ おお こくひく せい く
考え過ぎた時はいつも、私が集めた「恐れを克服する」聖句のセク
ションを開きました。特に、次の聖句は大きな助けになりました。

こころざし けん こ もの まつた へいあん まも
志の堅固な者を、あなたは全き平安のうちに守られます。その
ひと かんらい
人があなたに信頼しているからです。¹

し がけ たに あゆ おお
たといわたしは死の陰の谷を歩むとも、わざわざを恐れません。
あなたがわたしと共におられるからです。あなたのむちと、あなたの
つえはわたしをなぐさめます。²

よ たの かみ
わたしがおそれるときは、あなたに寄り頼みます。わたしは神に
よって、そのみ言葉をはめたたえます。わたしは神に信頼する
ゆえ、おそれることはありません。肉なる者はわたしに何をなし
え 得ましようか。³

はは わたし い ぜん よ ほん こくちゅう
そのころ、母は私たちが以前いっしょに読んだ本「獄中からの
さん び おも た ほん さいあく
賛美」⁴のことを思い出させてくれました。その本は、最悪の
じょうきよう なか さん び じょうきよう よ が み
状況の中で賛美し、その状況が良いものに変わるのを見なさい、
ひとひと おし ぼくし が がん あし ひと じゅう
と人々に教えた牧師について書かれています。彼は、足が不自由な
ひと ある こと せ し せくけき
人が歩けるようになり、子供が死からよみがえったのを目撃しま
した。すべて、神への賛美のおかげでした。

ひ わたし さん び わたし みずが
その日から、私は賛美することにしました。これは、私が自ら
ほ かな ひ あ いのちづな じ ぶん じょうきよう
掘った穴から引き上げてくれる命綱になりました。自分の状況に
かんが とく じょうきよう さん び からだ じょうたい
ついて考える時はいつでも、その状況について賛美し、体の状態や、
しゅ かんしや いの
さけられそうにない手術についても、主に感謝しました。祈りと
ちから
賛美の力によって、これから起ころうとしていた素晴らしい奇跡の
まつた よ ぞう
ことなどは、全く予想もしていませんでした！



家族や友人が祈ってくれてから2週間ほど経ったころ、私はセカンドオピニオンを聞くために別の病院に行きました。症状が悪化しているのではないかと心配になったので、私は即座に祈って夢中で賛美し、聖句「正しい者には災いが多い。しかし、主はすべてその中から彼を助け出される」⁵を引用しました。

診察の後、医者は検査結果を見せながら説明してくれました。写真からは、問題となる症状は消えていました！ 私はいやされたのです！

このいやしは、主が祈りに答えられたという証になりました。神様が祈りに答え、ご自分の者を顧みられた、実際に起こった奇跡に、座って耳を傾けない人はほとんどいませんでした。

それだけではありません！ 私は理学療法を受けることができ、数ヶ月後には、足は手術なしで自然に治りました。クリスマスに間に合ったのです！ 私は全快しただけでなく、ダンスグループに戻って、国中でパフォーマンスすることができました。今では、痛みや孤独、不安、曇うつがどんなものなのか分かるので、入院している人や養護施設にいる子供たちにも、私だけでなく彼らのことも気にかけてくださっている神様がいることを示してあげたいと思いました。

脚注：

¹ 新改訳聖書、イザヤ書 26:3

² 口語訳聖書、詩篇 23:4

³ 口語訳聖書、詩篇 56:3-4

⁴ 獄中からの讃美、マーリン・キャロザース著、初版は1970年に出版

⁵ 口語訳聖書、詩篇 34:19

文：ガブリエラ・ファーマーの著書からの編集 原作はJust1Thingに掲載

絵：松岡望 デザイン：ステファン・ミーラー

出版：マイ・ワンダー・スタジオ Copyright © 2017年、
ファミリーインターナショナル

“The Best Christmas Gift”--Japanese

関連の読み物はこちら ⇒ クリスマス、いやし

